

国語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は表紙を入れて十一ページあり、これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 3 受検番号は、解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 4 答えは、問題の指示に従って、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

受検 番号	
----------	--

1 次の1・2の問いに答えなさい。

- 1 次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書け。
- (1) 光をアびる。
 - (2) 危険をケイコクする信号。
 - (3) 社会のフウチヨウを反映する。
 - (4) 映画の世界に陶醉する。
 - (5) トレーニングを怠る。
 - (6) 小冊子を頒布する。

2 次の行書で書かれた漢字の特徴を説明したものととして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

茶

- ア 全ての点画の筆の運びが直線的である。
イ 点画が一部連続し、筆順が変化している。
ウ 点画の省略がなく、線の太さが均一である。

2 次の文章を読んで、あとの1〜4の問いに答えなさい。(1)〜(4)は形式段落を表している。

少し違う角度から学校の知の意義を話しましょう。一つ目は、経験は狭いし、経験し続けるだけでこの世の中のいろいろなることを学べるほど人生は長くない、ということだ。¹

十九世紀ドイツの「鉄血宰相」と言われたオットー・フォン・ビスマルクが、「愚者は経験から学ぶ、賢者は歴史から学ぶ」と言ったと言われています。正確には少し違うようですが、なかなか味わいのある言葉です。²

愚かな人は自分が経験したところから学ぶ。賢者はほかの人の経験、すなわち、歴史の中の誰かの成功や誰かの失敗、そういうものから学んで、自分の目の前のことに生かしていく。そういう意味の言葉です。³

身近な問題を日常的にこなすためには、多くの場合、自分の経験だけで大丈夫かもしれません。^a、身近で経験できる範囲の外側にある問題や、全く新しい事態にある問題について、考えたり、それに取り組んだりしようとすると、身近なこれまでの自分の経験だけで

はどうにもなりません。⁴

たとえば、何年も商売をやっていると、商売のこつを覚えたりお客さんとの関係ができたりします。難しい言葉も文字式も、社会も理科も、そこには不要です。しかし、ある日、「今、自分たちの市で起きている再開発計画について、商店街のみんなでも対応を考えよう」という話になったら、商売の経験だけでは対応できません。再開発計画の書類を手に入れて目を通したり、法令を調べたり、みんなで議論をしたりすることが必要になります。それには、経験で身につけた日々の商売の知識やノウハウとは異なる種類の知が必要になるのです。日々の経験を超えた知、です。⁵

(中略)

ジョン・デューイという非常に有名な教育哲学者が『民主主義と教育』(岩波文庫、松野安男訳)という本の中で、次のように書いています。「経験の材料は、本来、変わりやすく、当てにならない。それは、不安定であるから、無秩序なのである。経験を信頼する人は、自分が何に頼っているのかを知らない。なぜなら、それは、人ごとに、また、日ごとに変わり、そして言うまでもなく国ごとにも変わるからである」(前掲書下巻、一一〇頁)。ある人が経験するものは、たまたまそれであって、偶然的で特殊なものなのです。⁶

それどころか、個人の経験というのは、狭く偏っていたりもします。デューイは、次のように述べています。「経験からは、信念の基準は出てこない。なぜなら、多種多様な地方的慣習からもわかるように、あらゆる相容れない信念を誘発するのが、まさに経験の本性そのものだからである」(同右)。⁷

^b、経験は大事だけれども、それはどうしても狭い限定されたものでしかありません。しかも、経験から学ぶというときに、経験の幅を少しずつ広げていくには結構時間がかかります。少しずつ経験を広げたり、何度も失敗したりするためには、人の人生はあまりにも時間が限られています。⁸

むしろ、文字による情報を通して、ほかの人の成功や失敗がどうだったのかとか、ほかの人の経験がどうなのかということや学ぶのが、てつと早く「自分の経験」の狭さを脱する道です。そこでは、単に文字の読み書きができるというだけでなく、学校で学ぶ社会科学や理科、外国語や数学の知識などが役に立つはずです。何せ、学校の知は「世界の縮図」なのですから。⁹

二つ目に話したいのは、知識があるかないかで経験の質は違うということ。知識か経験か」という二項対立ではなくて、そもそも経験の質は、知識があるかないかで異なっているのです。¹⁰

ここでも再びデューイの議論を紹介します。一つ目は、十分な知識があれば、深い意味を持つ経験ができる、ということ。デューイは、同じように望遠鏡で夜の星を見ている天文学者と小さな少年との違いを例に挙げて論じています(前掲書下巻、二六頁)。望遠鏡で見えている星は同じです。だけれども、そこから読み取るものは全然違うということ。望遠鏡を覗いて覗いる小さな少年は、「赤く光る星がきれいななあ」と思うかもしれません。しかし、同じ星を同じような望遠鏡で見ている天文学者は、「この光の色は、星の温度や現在の状況を伝えている。この星の色をどう考えればいいんだ」ということを考えながら星を見たりするでしょう。そこから、宇宙の謎が解明できるかもしれません。「単なる物質的なものとしての活動と、その同じ活動がもつことのできる意味の豊かさとの間の相違ほど著しいものはない」とデューイは述べています。¹¹

(中略)
デューイが言っている知識と経験の話でもう一つなるほどと思うのは、まだ経験していないもの、これから何が起きるかといったことを考えるために、既存の知識が必要だ、と述べているくだりです。¹²

(中略)
デューイが挙げている例は医者医の例です。目の前の患者の症状、頭が痛いとか喉が痛いとか、既往症医が何かとか、こういうのを全部総合

して考えると、これはこういう病気でこれからこうなるから、そうすると投与すべき薬はこれだとか、そういうふうに考えます。そのことをデューイは、「直面する未知の事物を解釈し、部分的に明らかなき実をそれと関連して思い当たる諸現象で補充し、それらの事実の起こり得る未来を予見し、それによって計画を立てる」と述べています。十分な知識があつてこそ、「目の前の患者を診る」という新しい経験に、適切に対応できるわけです。¹³

同じように、われわれは、世の中のあれこれについての知識を持っていて、それを使って、現状を認識し、未来に向けた判断をするので、知識は常に過去のものです。過去についての知識を組み合わせて現状を分析し、未来に向けているいろいろなことをする。これが知識の活用の本質です。そうすると、学校の知というのは、そういう意味で意義がとてよく分かるわけです。無味乾燥に見えるけれども、世界がどうなっているかという知識をみんなが勉強して、それを使って目の前の現実を解釈して、新しい事態への対応(新たな経験)に活かしていけるわけです。¹⁴

(広田照幸「学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか」による)

^脚ノウハウは技術的知識・情報。物事のやり方、こつ。

既往症は現在医は治っているが、過去にかかったことのある病気。

1 本文中の a・b にあてはまる語の組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア (a) しかし b つまり イ (a) だが b むしろ)
ウ (a) すると b だから エ (a) また b 例えは)

2 — 線部①「不要」とあるが、この熟語と同じ構成の熟語として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 失敗 イ 信念 ウ 過去 エ 未知

3 次は、ある生徒が授業で本文について学び、内容を整理したノートの一部である。これを読んで、あとの問いに答えよ。

形式段落 Ⅰ ～ Ⅸ 学校の知の意義①

・自分の経験だけでは対応できない問題
例…商店街の再開発計画

● 日々の経験を越えた知が必要になる。

● 個人の経験は偶然的かつ特殊的で狭く偏っていることもある。

● 経験の幅を拓げるには時間がかかる。

○ Ⅰ から他人の成功、失敗、経験を学ぶことができる。

◎ 学校で学ぶ知識が役に立つ。

形式段落 Ⅹ ～ Ⅽ 学校の知の意義②

・知識が多ければ、それだけ Ⅱ ができる。

例…同じ夜の星を見る少年と天文学者

・未経験のことに対応するために、既存の知識が大切だ。

例…目の前の患者を診る医者

○ 知識があることで経験の質は向上する。

◎ 学校で学ぶ知識が役に立つ。

〈まとめ〉学校で学ぶ意義Ⅱ Ⅲ ことにある。

Ⅰ ・ Ⅱ に入る最も適当な言葉を、 Ⅰ には七字、

Ⅱ には九字で本文中から抜き出して書き、 Ⅲ には六十五

字以内でふさわしい内容を考えて答えよ。

4 次は、四人の中学生が発言したものである。——線部②「知識の活用の本質」について、筆者の考えに最も近いものを選び、記号で答えよ。

ア 英語について興味があるので、英字新聞の記事を読むことに挑戦しようと思います。そのために、たくさん英単語を暗記して

知識をより増やせるように、自分専用の単語帳を作りたいです。

イ 県外へ修学旅行に行き、私たちの住む地域の良さを改めて感じ

ました。総合的な学習の時間に、伝統文化や産業、郷土料理など

に関する話を聞いて、地域の魅力について理解を深めたいです。

ウ 自然災害の被害が毎年大きくなってきているそうです。社会科

や理科の学習内容を生かして通学路の危険な箇所を把握し、災害

時に的確な行動をとれるようハザードマップを作成したいです。

エ 少子高齢化が進むと街に活気がなくなるのではないかと思っ

ています。これからは、中学校の生徒会活動だけでなく、地域の子

ども会活動やボランティア活動などにも参加していきたいです。

次の文章を読んで、あとの1〜3の問いに答えなさい。

平安時代の音楽家であった和邇部用光が、土佐の国（現在の高知県）の祭りに出かけた後、都に向かう船旅の途中で海賊に襲われた。本文はそれに続く場面である。

（用光は）弓矢の行方知らねば、防ぎ戦ふに力なくて、今は疑ひなく殺されなむと思ひて、（弓矢を扱うことができないので）筆策を取り出でて、（お前の）屋形の上（そこ）にゐて、「あの

党や。今は沙汰に及ばず。とくなにもものを取りたまへ。ただし、年者たちよ。今はとやかく言つても始まらない。早くなんでも好きなものをお取りください。」

ごろ、思ひしめたる筆策の、小調子といふ曲、吹きて聞かせ申さむ。（心に深く思つてきた）

さることこそありしかと、のちの物語にもしたまへ」といひければ、宗（話の種とされるがよい）

との大きな声にて、「主たち、しばし待ちたまへ。かくいふことなり。もの聞け」といひければ、（お前たち）船を押さへて、おのおの静まりたるに、

用光、今はかぎりとおぼえければ、涙を流して、めでたき音を吹き出でて、吹きすましたりけり。海賊、静まりて、いふことなし。よくよく聞きて、曲終はりて、先の声にて、「君が船に心をかけて、寄せたりつれども、曲の声に涙落ちて、かたさりぬ」とて、（ねらいをつけて、）漕ぎ去りぬ。（去ってしまおう）

（「十訓抄」による）

① 筆策 雅楽の管楽器。

② 屋形 船の屋根。

③ 宗 海賊の中心となっている者。

1 線部①「ゐて」を現代仮名遣いに直して書け。

2 線部②「いひければ」、③「いひければ」の主語は誰か。その組み合わせとして正しいものを次から選び、記号で答えよ。

ア ② 宗と ③ 海賊) イ ② 海賊 ③ あの党
ウ ② あの党 ③ 用光) エ ② 用光 ③ 宗と)

3 次は、本文の内容をもとに先生と生徒が話し合っている場面である。I Ⅰ Ⅲ に適当な言葉を補つて会話を完成させよ。

ただし、I Ⅰ Ⅱ Ⅲ には、本文中から最も適当な言葉を五字で抜き出し、Ⅲ には、十字以内でふさわしい内容を考えて現代語で答えること。

先生 「この話では、最終的に海賊は用光から何も奪わずに去っています。海賊はなぜ去ったのか考えてみましょう。」

生徒 A 「用光の演奏が素晴らしかったからだと思います。」

生徒 B 「どうして素晴らしいということがわかるの。」

生徒 A 「用光の演奏について本文に『I Ⅰ』という表現があるよ。」

生徒 C 「なるほど。どんな思いで演奏していたんだろう。」

生徒 A 「用光が海賊と出会った場面で『今は疑ひなく殺されなむず』とあるように、死を覚悟していたんだと思うよ。」

生徒 B 「たしかに演奏をする場面で用光は『II Ⅱ』と思っ

ているね。」

生徒 A 「きっと演奏には万感の思いが込もっていたんだろうね。」

生徒 B 「だから、その演奏を聞いた宗とは、『曲の声に涙落ちて』

と言つて、何も奪わずに去っているんだね。」

生徒 C 「そうか、音楽にはⅢ Ⅲ 力があるのかもしれないね。」

先生 「そうですね。いい話し合いができましたね。ちなみに作者は本文の続きで、この話を『管弦の徳』という言葉でま

とめています。」

とめています。」

次の文章を読んで、あとの1〜3の問いに答えなさい。

新しい感染症が流行する中、ともに中学三年生で美術部の千咲とバレー部の鈴音は思い切り活動ができない学校生活を送っている。ある日、鈴音がうっかり墨をつけて汚してしまった描きかけの絵の前に、千咲は思案していた。

この絵をどうしよう。

昔みたいに新しく描き直す、なんてことは、今までの労力的にもできないし、そもそも気軽なスケッチブックじゃなくて大きなキャンバスだから、取り替えもきかない。

汚れの部分だけをパレットナイフか何かで削り取って、目立たないように上からも少し明度の低いオイルパステルで塗り直す？

それとも、いつそアクリルガッシュで汚れ以外の部分も塗り足してみても、質感のアクセントにする？

まだなんとかなる。

でも、……なぜだかやる気がまったく起きない。

とりあえずアクリルガッシュの箱を開けたけれど、明度と彩度の高いあざやかないつもの絵の具を、手に取る気が起こってこない。

パーガンデイ、クリムゾン、ブラウン、オーク、レモンイエロー、イエロー、……一本一本、絵の具をゆっくり指さしながらぼんやり考えていると、吹奏楽部の部員の一人がヤケでも起こしたんだろう。最近ものすごい勢いで流行りだしたアニメの主題歌を倍速で吹き出して、サビのところに変な音が出て止まった。

ぎゃははは、と吹奏楽部の部員たちの笑い声が聞こえた。

これじゃ進めない。『僕を連れて進め』ない。

僕はちよつと噴き出して、それから自分の指がたまたま止まった絵

の具を見た。

黒。

僕がめつたに使うことのない、黒だ。

この絵を描くにあたっては、一度も、一ミリだって使っていない、色あざやかで躍動感あふれる選手たち。

……実際のところ彼らは、大会がなくなつて、ふてくされて練習に身が入らなくなっている。

①僕だつてそうだ。

市郡展の審査がないつていうことが、思いのほか響いていて、うまく絵が描けなくなっていた。

なんだかイライラして、それをモデルのせいにして、体育館で鈴音に言いがかりをつけた。無様でかつこ悪くて。

……この墨で汚されたのは、今の僕らそのものじゃないか。

僕はもう一度、練りこまれた墨をなぞる。

……ああ、そうか。

僕の頭に詰まっていた、垂れこめたもやのようなものの中に、色あざやかな何かが差しこんだ。

それは細い細い線のように、かほそくて、……それでも。

僕は黒のアクリルガッシュを取り出した。箱入りのセットとは別の、一度も使っていない特大の黒チューブを金属製のトレーに乗せて、版画で使うローラーにべったりとつけた。

はじから慎重に、しつかりと。

あざやかだった絵の上に転がしていく。黒く、黒く。

全部、全部、黒く。

不思議なことに、少しずつ、少しずつ、僕の気持ちは落ち着いていった。

そうだよな。

と、僕は思った。

そうだ、なんかこの絵は嘘うそっぽいって心のどこかでずっと思つていたんだ。

だったらいつそ真っ黒に塗りつぶせ。

そんな嘘なんて。嘘の塊なんて。

『暗闇の牛』ならぬ、暗闇の運動部員たち。

審査も体育祭での展示もないんなら、誰にも遠慮することはないだろう。嘘をついてきれいな絵を描く必要だつてないはずだ。

考えてみたら、僕はもう何年も嘘の絵ばかり描いていた気がする。

きつとそれは、あの五年前のタンポポからだ。

……あのとき僕が本当に描きたかったのは、どんな絵だったんだろう。

もしもあのとき、あの汚れをなかつたことにして絵を描き直したりせず、汚れたクレヨンのまま、何もかも引き受けて、タンポポを描ききつていたら……。

あれからずつと、僕があざやかな色で塗りつぶしてふさいできたその内側には、一体どんな色たちがうごめいていたんだろう。

鈴音に汚されたこの絵を全部黒く塗ったとき、僕は満ち足りていた。

ああ。

アクリルガッシュが乾くまで、しばらくこの黒さを眺めていたい。

これは真っ黒じゃない。僕は知っている。

この黒の下にたくさんの色彩が詰まっている。

どのくらいそうしていただろう。

窓からの日差しは傾いて、西日特有の、蜂蜜のようにまろやかな光が、薄汚れたシンクに差しこんでいる。

がたん、と部室のドアが開いた。

部活が終わったばかりなんだろう。バレエ部のネイビーブルーのユニフォームを着たままの鈴音がひどく青ざめた顔をして僕を見た。マスクを持ったこぶしを固く握りしめて、真夏ののに少し震えているようにも見えた。そして大股で、一直線に僕に近づいてきて、何かを言いかけて、急に凍りついたような顔になった。

視線の先には真っ黒なキャンバス。

「……!!」

息を吸いこむ音と同時に、鈴音は、破裂したように大声で泣き出した。

うわああああああああ

つて、それこそ幼稚園くらいの子どもがギャン泣きするみたいな勢いで。顔を真っ赤にして、ほろほると、どこからそんな水分が出てくるんだろうつていう勢いで、大粒の涙も、いや、粒なんてもんじゃなくて滝みみたいな涙も、鼻水も、大声も、のどの奥から、絞り出すように、叫ぶように。

「ごめつ…ごめん、…ごめんなざつ、…」

しゃくりあげながら鈴音が慟哭どうきくの合間にごめんなさいをくり返そうとする。

息が詰まって死んでしまふんじゃないかと僕はあわてた。

何より、こんな勢いで泣くなんて。鈴音が泣くなんて。

「いや、何。どうしたの？」

立ち上がつて鈴音を落ち着かせようとするけれど、どうすればいいんだ？ あの猛獣鈴音といえど女子だぞ。一応女子相手だぞ。じいちゃんばあちゃんや子ども相手じゃないから、背中トントンとか、違うだろう。僕は行き場を失った手を空中で、無様に右往左往させた。

「絵つ、……絵、汚して、だか、……だからそんなつ、」

まっくろのおおお!!

と、また鈴音が激しく泣き出した。

まっくろ……真つ黒? いや。いやいやいや、違う。そうじゃない。確かにきつかけはあの汚れだけだ。そうじゃない。

僕は自分の意志で、この絵を黒く塗った。

そしてそれは、僕を少し救いもしたんだ。

どう説明すればいい? 僕は困って頭をかいた。それからふと、大声で泣いている鈴音の涙や鼻水が、西日できらきらしていることに気づいた。わんわん泣いている姿が、きれいだと思つた。思つてしまつた。悲しみや衝撃に無になるんじゃない。もうまっすぐに、感情を爆発させている姿だ。

「……ちよつとここに立つて」

僕は鈴音の腕を引いて、イーゼルの後ろに立たせた。鈴音は言われるままに立つて、泣き続けた。

僕は絵の具セットから、パレットナイフを取り出す。

黒のキャンバスに手を置く。もう乾いている。大丈夫。

僕の毛穴がぶわつと一気に開いたような感覚になつた。

……いける!

そつと慎重に、それから静かに力をこめて、僕は黒を削り出していく。

パレットナイフを短く持った指先に伝わる、下絵の凹凸に少しずつ引つかかる感覚。

足元にガリガリと薄く削られて落ちる黒のアクリルガッシュの細い破片。

——スクラッチ技法。

黒い絵の具の中から、僕が描いていたあざやかな色合いが、虹色が、細く細く顔をのぞかせる。

削れ。削れ。削りだせ。

これが僕だ。今の僕らだ。

塗りつぶされて、憤つて、うまうまかなくて、失敗して、大声で泣いてわめいて、かすかな抵抗をする。

僕の心臓はどきどきしてくる。体温が上がる。いいぞ。慎重につきみ取れ。決して逃すな。対象を捉えろ、この鈴音の爆発を捉えろ、削り出し、描け。描け描け描け描け!!!

③これは狩猟だ。獲物を捕まえろ。生け捕れ。

こんな好戦的な気持ちで絵を描いたのは生まれて初めてだ。

(歌代朔「スクラッチ」による)

④ アクリルガッシュは絵の具の一種。

五年前のタンポポは洪水被害で避難所生活を送っているときに、クレヨンの汚れをすべて拭き取って千晧が描いた絵。

⑤ 嘔吐は大声をあげて激しく泣くこと。
イーゼルは画板やキャンバスを固定するもの。

1 ——線部①とあるが、この場面における千晧の様子を説明したものと最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 描いていた絵を汚されてしまい、鈴音に対するいらだちを隠せずにいる。

イ 描いていた絵を汚されてしまい、賞が取れないだろうとうなだれている。

ウ 力を試す場がなくなってしまう、気落ちして絵を描くことに集中できないでいる。

エ 力を試す場がなくなってしまう、今まで絵を描き続けてきたことを後悔している。

5

中学校の生徒会役員であるあなたは、学校で配られた広報紙を読み、鹿児島県で二〇二三年七月二十九日から八月四日にかけて第47回全国高等学校総合文化祭（以下、総文祭）が開催されることを知りました。興味をもったあなたは、来年度、高校生になる中学三年生に向けて総文祭を紹介したいと考え、生徒会新聞に來場を呼びかける記事を掲載することにしました。記事を書くために準備した、資料1～3の中から参考にする資料を二つ選び、あとの(1)～(4)の条件に従って、記事の下書きを完成させなさい。選んだ二つの資料については、解答题紙に1～3の番号を記入すること。

条件

- (1) **A** には適当な見出しを書くこと。
- (2) **B** は二段落で構成し、六行以上八行以下で書くこと。
 - ・ 第一段落には、資料から分かることを書くこと。
 - ・ 第二段落では、第一段落を踏まえて、あなたが考える総文祭の魅力を書くこと。
- (3) 選択した資料を示す場合や、資料中の数値を使用する場合は、次の例にならって書くこと。

例	資料	↓	資料	1	数値	↓	30.5	%
---	----	---	----	---	----	---	------	---
- (4) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

記事の下書き

〇〇中学校

生徒会新聞

□月△日発行

A

みなさん！総文祭をご存じですか？
総文祭は、芸術文化活動を行っている高校生が目指す「全国大会」です。

B

来年度、本県で開催される総文祭。ぜひ、会場で体感してみてください。

選んだ2つの資料を提示する場所

資料2

大会概要

大会について
第47回大会で、全都道府県開催の一巡目を締めくくる記念すべき大会

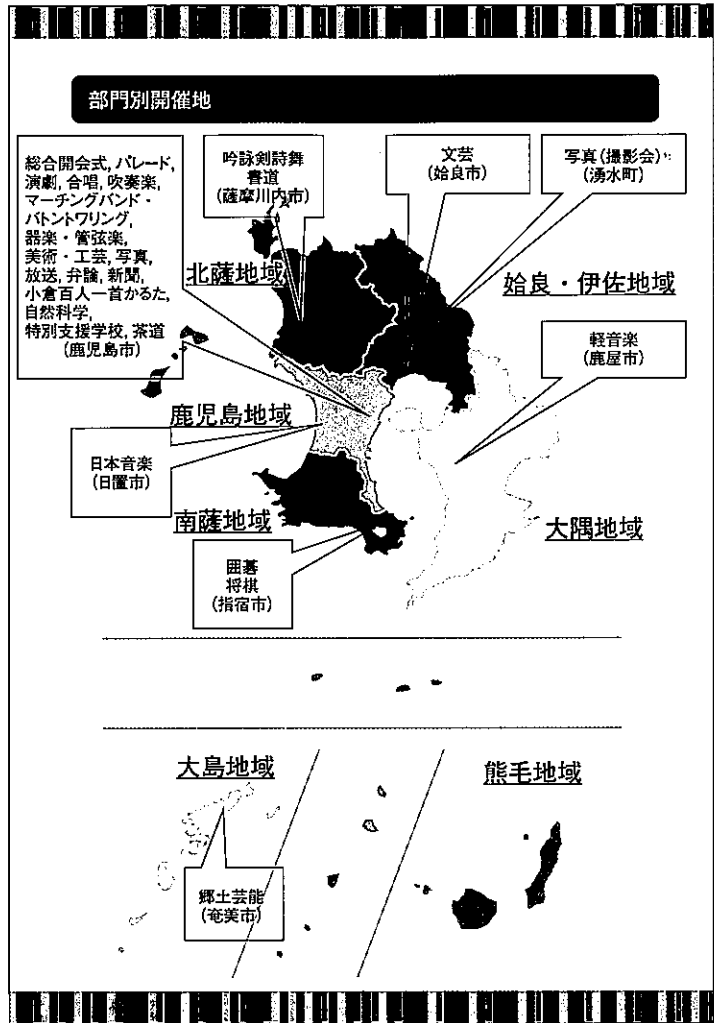
大会テーマ
47の結晶 桜島の気噴にのせ
つむ 緋文化の1ページ

目的
芸術文化活動を通じて、全国的、国際的規模での生徒相互の交流を図る

参加者など
参加校は約3千校
参加者は約2万人
(海外からはニュージーランド、ベトナム、韓国の3カ国)
観覧者は約10万人

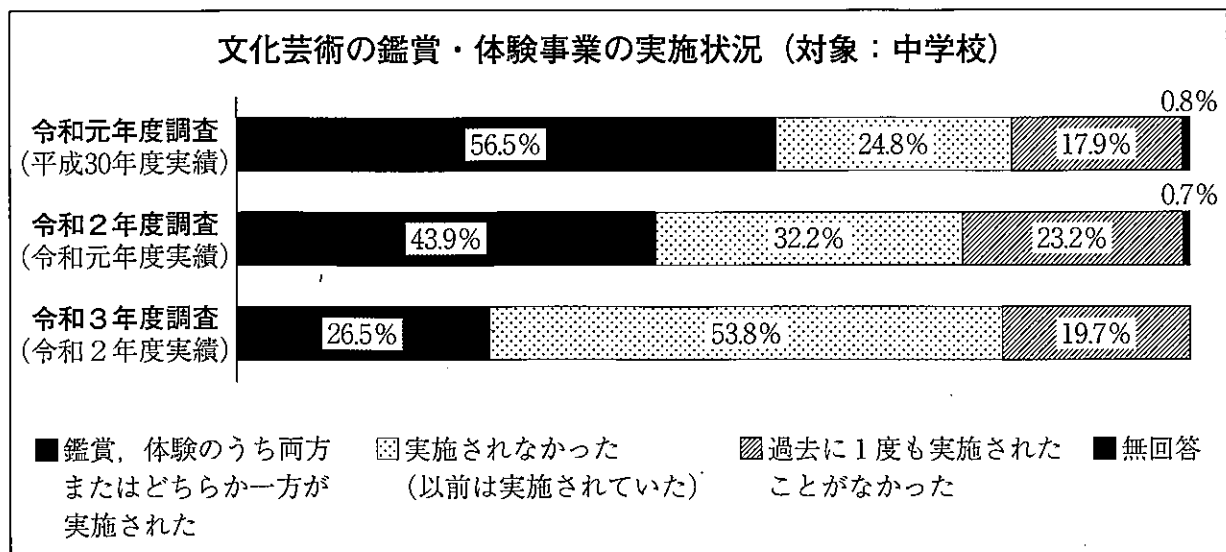
(「第47回全国高等学校総合文化祭ホームページ」をもとに作成)

資料1



(「鹿児島県教育委員会ホームページ」をもとに作成)

資料3



(文化庁 令和元～3年度「文化芸術による子供育成総合事業に関する調査研究」をもとに作成)

国語解答例

大問	配点	小問	解答例												
1	14点	1	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">(1)</td> <td>浴(びる)</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>警告</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td>風潮</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td>とうすい</td> </tr> <tr> <td>(5)</td> <td>おこた(る)</td> </tr> <tr> <td>(6)</td> <td>はんぷ</td> </tr> </table>	(1)	浴(びる)	(2)	警告	(3)	風潮	(4)	とうすい	(5)	おこた(る)	(6)	はんぷ
(1)	浴(びる)														
(2)	警告														
(3)	風潮														
(4)	とうすい														
(5)	おこた(る)														
(6)	はんぷ														
2	26点	2	イ												
		3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">I</td> <td>文字による情報</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>深い意味を持つ経験</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>世界の仕組みについての知識を学ぶことで自分の経験の狭さから脱し、その知識を組み合わせて現状を分析し、新たな経験に活かしている</td> </tr> </table>	I	文字による情報	II	深い意味を持つ経験	III	世界の仕組みについての知識を学ぶことで自分の経験の狭さから脱し、その知識を組み合わせて現状を分析し、新たな経験に活かしている						
I	文字による情報														
II	深い意味を持つ経験														
III	世界の仕組みについての知識を学ぶことで自分の経験の狭さから脱し、その知識を組み合わせて現状を分析し、新たな経験に活かしている														
		4	ア												
		5	エ												
		6	ウ												
3	18点	1	イ												
		2	エ												
		3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">I</td> <td>めでたき音</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>今はかぎり</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>人の心を動かす</td> </tr> </table>	I	めでたき音	II	今はかぎり	III	人の心を動かす						
I	めでたき音														
II	今はかぎり														
III	人の心を動かす														
		4	ウ												
4	23点	1	ウ												
		2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">I</td> <td>あざやかな色</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>新しく絵を描き直す</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>自分の気持ちに素直になって</td> </tr> </table>	I	あざやかな色	II	新しく絵を描き直す	III	自分の気持ちに素直になって						
I	あざやかな色														
II	新しく絵を描き直す														
III	自分の気持ちに素直になって														
		3	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">X</td> <td>イ</td> </tr> <tr> <td>Y</td> <td>感情を素直に表す鈴音の姿に触発され、抑圧された日々に対する正直な感情を今なら表現できると確信し、この機会を逃すまいと興奮している</td> </tr> </table>	X	イ	Y	感情を素直に表す鈴音の姿に触発され、抑圧された日々に対する正直な感情を今なら表現できると確信し、この機会を逃すまいと興奮している								
X	イ														
Y	感情を素直に表す鈴音の姿に触発され、抑圧された日々に対する正直な感情を今なら表現できると確信し、この機会を逃すまいと興奮している														
5	9点		(略)												
	9点														